

はぐくむ光のびる若芽

143

橋場 川島朋子

わが家には、中1の息子・小5の娘の2人の子供がいます。

この2人の子供は話好きで、夕食の時間などは学校の事から始まり、友達の話、テレビの事など1日の出来事を話してくれます。その話を聞きながら、「今日も1日楽しく過せて良かったね。」と思い、そして幸せを感じるひとときです。

この夕食の会話を通して、子供が心身共に成長している事がわかります。話の内容に、頼もしく思えたり、感心したり時には心配したりと物事に対する考え方も徐々に変化してきています。

子供たちも、そろそろ思春期の入口に立っているようで、最近、私のちよつとした一言に腹を立てたり、反抗するようになっています。その時は、私も「ムッ」として

反撃してしまい、後でちよつと大人げなかつたかなと反省しています。

この時期は、大人でもなく子供でもなく、人生の中で一番多感な時であり、自分の考えを持てるようになる

いつも見守って応援していることを忘れずに



「本当は、ムカつく親ほど子供を思っているんだぞ!」

る時期だと私は思っています。私自身もこの時期はそうでした。だから、子供たちの気持は良くわかります。でも、親になると子供かわいさに「ああしろ、こうしろ」と先まわりの指図してしまいます。そんな時、子供は「ムカつく親

だ」と思うのだろう。

でも、子供たちに私は言いたい。「本当は、ムカつく親ほど子供を思っているんだぞ!」と。

これから、あなたたちは、苦しい事にも出会うでしょう。親は、それを代ってやる事はできない

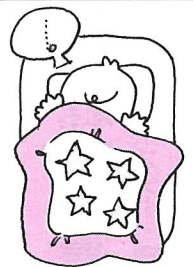
けれど、いつも見守って応援している事を忘れないてください。そして、素直な心を持ち、人を愛し、ゆるせる人に成長してくれる事を願っています。

日頃からこんな
予防対策を

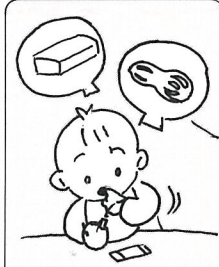
① ふとん、マット、枕などの寝具はやわらかすぎるものをさける。



② やわらかいふとんでは、うつぶせ寝をさせない。



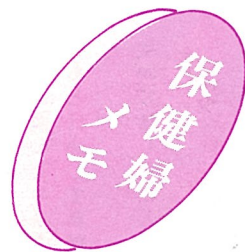
③ 子どもが寝ているときは、ふとんや毛布を顔の上にかぶせない。



④ ビーナッツ、あめ、ガムなどの食べ物は子どものそばに置かない。



⑤ ビニール袋、ラップ、ボタンなど危険なもののは手の届くところに置かない。

乳幼児には
危険がいっぱい

Q ビニール袋をかぶって息が止まったら?

窒息も子どもに多い事故の一つです。寝ている間に

ふとんや枕が顔の上に乗ったり、ビニール袋や、こたつなどに顔を突っ込んで窒息するケースがとくに目立ちます。ビニール袋をかぶって苦しんでいたら、急いで袋をはずし、呼吸の状態を確認します。呼吸が止まっている場合は救急車を呼び、ただちに人工呼吸をしてみてください。袋をはずしたらすぐに元気になり、意識も呼吸もいつもどおりであれば、まず心配ありません。ただし、意識があっても顔色が悪いようなときは、早めに病院へ連れていきます。

決! ◎原因をつきとめるのが先
窒息の原因となるものはビニール袋だけではなく、シーツなどの寝具、タオルやバスタオル、ビーナッツや大豆などの食べ物、ボタンなどの固形物が原因になることもあります。吐いたものがのどにつまって窒息するケースも少なくありません。まず、冷静にその原因を突き止め、一刻も早く取り除いてあげることが応急手当の第一歩です。

◎今回で「乳幼児には危険がいっぱい」のシリーズは、終了いたします。